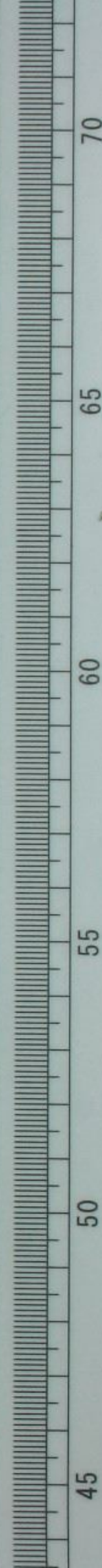




内侍所御法樂千首和歌集

2270
~ 4



利4
2.270

內傳所御法樂千首和歌

貞享二年八月

第一
十九日

五子夜宿寫若殘梅柳罕攝
去春白菜雪霜蕨

昔此光りたりてはる日の長きなりけり
 今日そ月子日の小なる世の乃ちちこれと老を思へば
 けさうらふ夢ふかたき古柳ふきのよれあのかとけしとなし
 ままの死なすねとも物交のしほひえにらし園のうぐいす
 まさむき神への君名のそれうもほたるよりれはなほそふき
 風をふくむけハ海やうなることなやす川のさくら揺る
 たくのなきいろ花もあるう暖物くるまう匂ふゆめのゆめと死
 ゆく水うらう門のとちひくくみこくま風あるぬき此青柳
 かりきいと折ふかくれぬ物といふふか話を語るふきれく
 すもの店々庵上の雲も煙水もはくふぼく遠近のやりり

九文臣 定基 實隲 同 時方 通茂 共方 為綱 推元

鷹 戾 炸 除 忍 初 不 初 後 遇 旅 恩 恨
得 竈 火 夜 去 去 去 去 去 去 去 去

曉松竹苦山 河野關 撫海旅別 家 路

田家 懐旧 夢 神 還 懐 記

あめゆふの田舎をふりて 緑むれはむらゝるゝ 春の風はかり 唐
はあゝいふぬまゝとあめをふりて 春の風はかり 唐
春の風はかり 唐
かゝるゝとふりて 春の風はかり 唐
はあゝいふぬまゝとあめをふりて 春の風はかり 唐

通新 行豊 雅元 意光 雅喬 公紀

第二十九日

五香風 度初雫 野造度 田若菜 麦残雪 海 宵

一歩吹くまゝの春の風はかり 唐
はあゝいふぬまゝとあめをふりて 春の風はかり 唐
春の風はかり 唐
かゝるゝとふりて 春の風はかり 唐
はあゝいふぬまゝとあめをふりて 春の風はかり 唐

交佳 通新 行豊 時成 石維 同

暁文海 夕 梅 柳 磯去草 江五月 玄一遠 辱花 初花 花留人 夏後花 唐花 蛙 歎 春欲書

あめゆふの田舎をふりて 緑むれはむらゝるゝ 春の風はかり 唐
はあゝいふぬまゝとあめをふりて 春の風はかり 唐
春の風はかり 唐
かゝるゝとふりて 春の風はかり 唐
はあゝいふぬまゝとあめをふりて 春の風はかり 唐

通新 行豊 通新 宜定 惟庸 同 同 時方 兼豊 同 芸方 時成 意光

そとにわたりたてゝもあらばうきうきとれ名の八雲を任せまじくね

わがまゝの心とみえん別れまゝに候ふのまゝ今船のり川に若

世々之を油のちみてもあらうとてう世ふらうしむ

ふーおんふーおんぬあふのなふふふもぬぬまの屋たて是

哀もなしくなうとたうふ夜ひとふためびやくとくとも子太郎

にうへにふはけをもちて、うへふたのまじ

わくをうけとて我り来と爲くたふためとらん

けりそその月夜たふし甲ふほむらゝぬほろちりた

なめいあかり種とりせしむる草人のうへふたふえりるらん

卯のちをうちなとちきしみるまめ咲きさむらゐくら柿き

くねふなり 雲夕日の名鑑なり 雲又ゆきともふえりぬまて

より恒々此を以て及高砂の尾とて此を以てす人等

夏席く通一きうけうくれ竹の蔭り
 づゐたる里の町をねむ

のうれを正しく知るに相々のサや成ふなりよふすし

種之々作するものには、
麻のちりなど

[illegible][illegible]

人、
今
少
又

[illegible][illegible]

卷之四

[illegible][illegible]

外はともかくのこれとかなれと云ふ之を今細く分は
 るを目的とする所なり。小豆杉は神々々々物風なり

通儀
同

惟庸

公紀

儀
同

辰

志經

雅
元

五

附

弘資

時方

補

紀

寶隆

意光

資序

通

勝成

卷之六

迎

資

上卷

人

司

無量堂

資茂 雅喬 行豐 共方 雅久 通躬 雅喬 有維 通藏 同 儀同 行量 通茂 定定 同 為經 芸方 實陰 灰大 同 為經 何季 通藏 柔豐 雅久 公紀 資茂

意光 實德 有維 雅喬 惟庸 允之 實德 惟庸 時威 時方 芳方 實德 通底

通

弘資 同 實陞 為總 匠人 方 通茂 雅喬 弘資

初逢 暁別 後朝 遇不逢 同 同 同 同 忘 同 同 恨 暁 山 河 橋 関 旅 同 海 山 同 田 述 同 懷

初逢はむをばあはれとて初逢ふ夜すの下級
暁別はむをばあはれとて暁別はむをばあはれとて
後朝はむをばあはれとて後朝はむをばあはれとて
遇不逢はむをばあはれとて遇不逢はむをばあはれとて
同はむをばあはれとて同はむをばあはれとて
同はむをばあはれとて同はむをばあはれとて
同はむをばあはれとて同はむをばあはれとて
忘はむをばあはれとて忘はむをばあはれとて
同はむをばあはれとて同はむをばあはれとて
同はむをばあはれとて同はむをばあはれとて
恨はむをばあはれとて恨はむをばあはれとて
暁はむをばあはれとて暁はむをばあはれとて
山はむをばあはれとて山はむをばあはれとて
河はむをばあはれとて河はむをばあはれとて
橋はむをばあはれとて橋はむをばあはれとて
関はむをばあはれとて関はむをばあはれとて
旅はむをばあはれとて旅はむをばあはれとて
同はむをばあはれとて同はむをばあはれとて
海はむをばあはれとて海はむをばあはれとて
山はむをばあはれとて山はむをばあはれとて
同はむをばあはれとて同はむをばあはれとて
田はむをばあはれとて田はむをばあはれとて
述はむをばあはれとて述はむをばあはれとて
同はむをばあはれとて同はむをばあはれとて
懷はむをばあはれとて懷はむをばあはれとて

有 爲 時 同 意 實 共 實 通 雅 儀 爲 時 實 通 新 以 資 何 以 資 通 意 惟 意 定 在

馬德

无文臣

意光

雅
久

惟腐

雅齋

惟庸

同

弘資

有維

腊成

系

时方

通

儀

寶

為

世威

平季

公紀

時威

公紀

172

有
維

推
无

有維

實臨

通誠

通夜

新書

江漢

寶

宜宜

時成

共方

定基

下 行 曼

時

壽考

同

義
四

通

實正

雅
之

實臨

通一
穢

時
方

貸成

義同

意光

時咸

遠夕之
 附陸蟬
 網涼夏
 浦初秋
 七夕別
 秋夢驚
 秋暎水
 薄似袖
 雲間初
 田家床
 西廬虫
 政卿秋
 對山見
 江月冷
 月信風
 秋月清
 獨惜月
 遙樓衣
 寄潘舟
 江畔晴
 乘久望
 長紅葉
 蕭林紅葉
 朝時風
 落葉看
 竹同霜
 毛茸雨
 添香葉

遠夕之 夕の光も冷し風もさびしく秋の気配がしる。そのとき
 附陸蟬 夏の成るにふさわしい。木陰の静けさ、蟬のささやき。
 網涼夏 涼しい網の目のように、夏の静けさを感じ。
 浦初秋 浦の静けさ、初秋の涼しさ。
 七夕別 七夕の夜、別れの涙。
 秋夢驚 秋の夢、驚き。
 秋暎水 秋の光、水に映る。
 薄似袖 薄く、袖のよう。
 雲間初 雲の間、初。
 田家床 田舎の床。
 西廬虫 西廬の虫。
 政卿秋 政卿の秋。
 對山見 對山、見。
 江月冷 江の月、冷。
 月信風 月の信、風。
 秋月清 秋月、清。
 獨惜月 獨、惜月。
 遙樓衣 遙樓、衣。
 寄潘舟 寄潘舟。
 江畔晴 江畔、晴。
 乘久望 乘久、望。
 長紅葉 長、紅葉。
 蕭林紅葉 蕭林、紅葉。
 朝時風 朝時、風。
 落葉看 落葉、看。
 竹同霜 竹、同霜。
 毛茸雨 毛茸、雨。
 添香葉 添香、葉。

雅元
 公紀
 時方
 雅喬
 行豊
 共方
 實種
 雅元
 竟光
 為徳
 室定
 存維
 公紀
 兼豊
 實法
 雅喬
 行豊
 室定
 實法
 共方
 通成
 同
 久人
 儀同
 久人
 時方

通藏 寶茂 元大 雅元 意光 通茂 雅齋 寶璽 何李

行豐 允之臣 通新 雅元 室定 公紀 有維 允之臣 同 時方 實陰 弘資

恨忘稀取別遇巧賢所辱見聞忠謫
虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫虫

岷岷 張雅 昭 沽 園 浩 籍 嶺 固 山 閑 絕
 危 崑 仍 史 務 葦 藻 苦 竹 松 象 象 鶴 或

新々頻 甲 苗 池 宮 浦 夜 意 情 八月 ぬ 瞿 夏 浦 夏 月 河 夕 五 水 道 雲 納 涼 夏 後 五 秋 風 七 夕 月 秋 夜 秋 夜 薄 露 秋 夕 初 一 田 家 麻 虫 多 滋 待 月 橋 月 湖 上 月 夏 後 月 霞 荒 月 水 鄉 旁 持 衣 初 紅 葉

わさきたまのふ月を今より一有とて愛ふりくちなく
八月の晴るももろく秋のめづかしやいそしめ
あまた草なりたれど水はれくもともも度守に池のほとけ
夕やたてて園をへりし鶴をるぬりの初ふ白くあたらふれ
けつあはれももろくみえぬ八月のふれく絶ぬ形の水水
たふたふももろくたふたふももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
あまたももろくあまたももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
涼やとくももろく涼やとくももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
川の清く流るももろく清く流るももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
まじりくももろくまじりくももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
水はれくももろく水はれくももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
秋まぬももろく秋まぬももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
池の清く流るももろく池の清く流るももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
あまたももろくあまたももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
はまのふれくももろくはまのふれくももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
白く流るももろく白く流るももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
夕まぬももろく夕まぬももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
山のふれくももろく山のふれくももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
秋のふれくももろく秋のふれくももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
あまたももろくあまたももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
秋風ももろく秋風ももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
くけふももろくくけふももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
雲ももろく雲ももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
あまたももろくあまたももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
橋のふれくももろく橋のふれくももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
水はれくももろく水はれくももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
心はれくももろく心はれくももろく八月のふれく絶ぬ形の水水
あまたももろくあまたももろく八月のふれく絶ぬ形の水水

雅喬 芸方 時成 公紀 有維 雅庸 行豊 為徳 何季 雅元 通徹 弘資 雅庸 定基 通新 實湛 通新 為徳 兼豊 資辰 儀同 兼豊 時方 同

飛紅葉 羅葉 著伏 湯冬 忌時 木枯 氷物結 冬月 遠冬 池子香 教殘差 浅雪 竹君

これぞもて勝ちてはねはるるもさふなりぬれはるるなり
みづみづのささるるの成紅葉のしほをばさるるなり
けりやとてはねはるるふねはるるなり紅葉のさるるなり
あつりいしのさるるなりはねはるるなりはねはるるなり
時よりいしのさるるなりはねはるるなりはねはるるなり
これぞもて勝ちてはねはるるなりはねはるるなり
ゆきふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり
外よりいしのさるるなりはねはるるなりはねはるるなり
まじりてはねはるるなりはねはるるなりはねはるるなり
浦よりいしのさるるなりはねはるるなりはねはるるなり
うちをねはるるなりはねはるるなりはねはるるなり
いづれもみけてはねはるるなりはねはるるなりはねはるるなり
はねはるるなりはねはるるなりはねはるるなりはねはるるなり
ゆきふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり

實種 儀同 矢長 時方 表光 實種 實種 通新 以資 通茂 元長 儀同 通藏

舊将 律紫 炭電 柔音 寄雲 寄夏 寄山 寄河 寄橋 寄篠 寄松 寄姑 寄養

みづみづのささるるの成紅葉のしほをばさるるなり
けりやとてはねはるるふねはるるなり紅葉のさるるなり
あつりいしのさるるなりはねはるるなりはねはるるなり
時よりいしのさるるなりはねはるるなりはねはるるなり
これぞもて勝ちてはねはるるなりはねはるるなり
ゆきふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり
外よりいしのさるるなりはねはるるなりはねはるるなり
まじりてはねはるるなりはねはるるなりはねはるるなり
浦よりいしのさるるなりはねはるるなりはねはるるなり
うちをねはるるなりはねはるるなりはねはるるなり
いづれもみけてはねはるるなりはねはるるなりはねはるるなり
はねはるるなりはねはるるなりはねはるるなりはねはるるなり
ゆきふりふりふりふりふりふりふりふりふりふりふり

行豊 資茂 實陰 通茂 時方 雅喬 以資 通茂 宣定 希豊 為徳 西成

實臨 時方 柔豐 去方 定定 定泰 實產 雅元 時方 定定 烏德 以資 儀同 通茂

雅庸 存雅 行豐 意光 實陰 雅元 希豐 時成 通茂 行豐 意光

新歌冬

まも今くけりし夏の雨の肉ふりてとや愛山吹のふれ

通藏

秋夜

平らと長とすのちとををけとらん友社なりし山吹ふ

實種

暮

と一とんと月と明ふたけとる強きけりけりそとと

資茂

負

明とる一夏の夜ととれみとるふけとるせりのとと

通茂

情

情とるこれとるこく入とるたよとるたよとるたよとる

雅久

閑

はととととととととととととととととととととととと

何季

子

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

時成

夏

とととととととととととととととととととととととと

雅喬

夏

とととととととととととととととととととととととと

通和

水

とととととととととととととととととととととととと

以資

夕

とととととととととととととととととととととととと

意光

六月

とととととととととととととととととととととととと

芸方

乞巧

とととととととととととととととととととととととと

定定

秋

とととととととととととととととととととととととと

時方

秋

とととととととととととととととととととととととと

雅喬

秋

とととととととととととととととととととととととと

意光

秋

とととととととととととととととととととととととと

同

秋

とととととととととととととととととととととととと

有能

秋

とととととととととととととととととととととととと

久大

秋

とととととととととととととととととととととととと

為徳

秋

とととととととととととととととととととととととと

有能

秋

とととととととととととととととととととととととと

久大

秋

とととととととととととととととととととととととと

同

秋

とととととととととととととととととととととととと

雅喬

秋

とととととととととととととととととととととととと

同

秋

とととととととととととととととととととととととと

雅喬

秋

とととととととととととととととととととととととと

同

秋

とととととととととととととととととととととととと

雅喬

閑持衣
重陽宴
杜紅葉
河紅葉
九月令
初冬時
落葉
雪
積雪
池氷
冬月
閑冬令

閑持衣は、閑居の持衣。重陽宴は、重陽の宴。杜紅葉は、杜鵑の紅葉。河紅葉は、河の紅葉。九月令は、九月の令。初冬時は、初冬の時。落葉は、落葉。雪は、雪。積雪は、積雪。池氷は、池の氷。冬月は、冬月。閑冬令は、閑冬の令。

通衣
同
雅喬
通衣
兼豐
同
賢茂
通衣
同
時成
實隆

閑月
閑雲
閑風
閑烟
閑園
閑橋
閑漆
閑系
閑木
閑草
閑虫

閑月は、閑月。閑雲は、閑雲。閑風は、閑風。閑烟は、閑烟。閑園は、閑園。閑橋は、閑橋。閑漆は、閑漆。閑系は、閑系。閑木は、閑木。閑草は、閑草。閑虫は、閑虫。

凡大
江資
實隆
雅喬
時成
定基
凡大
雅喬
實隆
有能
時方
意光
實隆
通織

御制表 西光上皇

近衛左府基興公 卒

儀同三司園基公 四十

今出川大納言伊季鄉 十一 久我大納言通誠鄉 十三 中院大納言通茂鄉 十六

日野大納言弘資鄉 十五 日野權中納言資茂鄉 十五 千種新中納言者維鄉 十四

風早前宰相實種鄉 十四 裏松宰相意光鄉 十四 西洞院冬儀時成鄉 十四

白川正二位雅裔鄉 十五 竹内刑部卿惟庸 十四 押小路從三位公起鄉 十四

水盛瀨從三位兼豐鄉 十四 梅路民部卿共方 十四 平松正四位下時方朝臣 十四

石井正四位下行豐鄉 九 白川正四位下雅元王 五 中院正四位下通躬朝臣 五

上冷泉從四位上為綱朝臣 十四 武者小路實陰朝臣 十四 野宮從四位下定基朝臣 十四

從五位 鳥丸右少弁宣定朝臣 八

和歌教合一千二十首

三十七葉

